

「FIN/SUM 2024」
(栗田長官代読) 鈴木大臣挨拶
令和6年3月5日

(金融庁長官の栗田です。鈴木大臣が国会日程のためご登壇が困難となりましたので、鈴木大臣の開会挨拶を代読いたします)

(金融担当大臣の鈴木俊一です。)

本日は、「フィンサム (FIN/SUM) 2024」にご参加いただき、誠にありがとうございます。開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

<生成 AI など、デジタル化の更なる進展>

昨年のフィンサムから早1年が経ちましたが、私たちの周りのテクノロジーは、生成 AI に代表されるように、予想を上回る進化を遂げています。

芥川賞作品も生成 AI を活用して創作されるようになるほど、高度な文章生成能力を有する AI ツールに容易にアクセスできる環境が到来したことは、驚くべきことです。著作権など活用にあたって留意すべき論点がありますが、政府としてもガイドラインの策定等を通じて、その健全な利活用の促進に向けた取り組みを行っています。

また、AI に限らず、テクノロジーの力が金融の可能性を拓いていくことを確信させるような取り組みが幅広く進展しています。

<Web3.0 の発展>

例えば、ブロックチェーン技術を活用した Web3.0 (ウェブスリー) の領域では、昨年6月に世界に先駆けてステーブルコイン法制を施行しました。

また、デジタル証券においては、大型不動産など、従来では小

口化することが難しかった資産が、トークン化を行うことで比較的少額からの投資が可能となり、個人向けの運用サービスに組み込む動きがみられます。また、グリーン投資を可視化するものなど、カーボンニュートラルの実現に資する取組みなども進展しており、これらは、資産運用立国など、政権が掲げる重要政策にも大きく貢献するものと考えています。

<地域課題の解決に資するフィンテック>

また、地域金融機関の皆様にも、スタートアップ事業者等との協働により、地域課題の解決に向けて奮闘いただいています。例えば、能登半島地震で被災された石川県においても、デジタル地域通貨の発行等を通じたコミュニティの活性化を検討されていると伺っており、テクノロジーを活用した地方創生に向けた取組みに大いに期待しています。

<リスクへの対応と健全なイノベーションに向けて>

他方で、AI やブロックチェーンといった新たな技術を金融セクターに取り入れていくことについては、利用者保護や金融安定といった観点から様々なリスクも指摘されています。

「信頼」がその根幹となる金融においては、テクノロジーや事業規模によらず、法令遵守を通じてリスク低減に向けた取組みを行って頂く必要があることは言うまでもありません。

本日お集り頂いている皆様は、その困難なチャレンジに立ち向かっている方々だと思えます。ともすれば、組織の中で抵抗にあわれている方もいらっしゃるかもしれません。

金融庁としては、利用者保護等が確保されることを前提に、皆様の前向きな取組みを力強く支援してまいります。「チャレンジしないリスク」も指摘される中、皆様の積極的なチャレンジを期待しています。

<ジャパン・フィンテック・ウィークの狙い>

こうした期待も背景に、金融庁では、昨日3月4日から3月8日をコア・ウィークとする「ジャパン・フィンテック・ウィーク」を初開催することとしました。

「ジャパン・フィンテック・ウィーク」は、フィンサムを含めて、官民様々な団体が主催する多彩なフィンテック関連イベントから構成されます。

今回、多くの自治体や大使館、団体、企業等の皆様からご賛同いただき、前後の週も含め、実に30以上のイベントが開催される見込みです。我々だけではこのような規模のイベントの開催は到底不可能であり、FIN/SUM開催にご尽力頂いた日経新聞社、並びに各種団体の皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

また、嬉しい驚きは、想像以上に海外からご参加頂ける方が多くいらっしゃったことです。日本市場への参入は簡単ではないと思われている方もいるかもしれませんが、国際金融センター等の取組を通じて、確実にビジネス環境は改善しています。また、皆様との協働を模索する日本の金融機関や事業者の方々も多くいます。是非、この機会を生かして今後のビジネス機会を探って頂ければと思います。

<おわりに>

2016年の初回のフィンサムにおいて、当時麻生大臣が「背広・ネクタイの銀行員と「シャツ・ジーパン」の若者が一緒に仕事をすることで新しいものが生まれる」といった主旨の発言をされたと聞いておりますが、今やスタートアップと既存金融機関の協働は当たり前になっています。エコシステムの一員として、金融庁職員の多くは今回特製のパーカーを着て参加しておりますので、何かあればお気軽にお声掛け下さい。

最後となりますが、皆様との協働により作り上げる一連の機会が、今回のテーマでもある「幸福な成長をもたらす金融」を実現するきっかけとなることを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。